

# 全国養護教諭研究大会参加報告

上越市立直江津東中学校 保坂 裕子  
上越市立高志小学校 久保田清美

1 期 日 平成 21 年 8 月 20 日 (木) ~8 月 21 日 (金)

2 会 場 岐阜県岐阜市 長良川国際会議場、県民文化ホール未来会館等

## 3 内 容

(1) 記念講演 演題 「ちょっと気になる子への理解と支援  
～一人ひとりの困り感に向き合う～」

講師 鳥取大学教授 小枝達也

- 学習障害,ADHD は小学校より中学校で不登校になる確率が高くなる。
- 年齢により見えてくるものが違ってくるので、発達障害の診断名は違ってくることが多い。
- 発達障害があっても適正に発見し、子育て支援をしていくことで非行や被虐待を防ぐことができる。早い段階でのかかわりは、育ちを助ける。
- 鳥取県では、平成 15 年から 5 歳児健診を取り入れ平成 19 年度では 100%の実施率となった。
- 5 歳児健診とは、育児支援の場、社会性発達と行動統制力の弱い子への気付きの場、就学に向けた心構えを喚起する場であり、子育て相談、心理発達相談、教育相談につなげていくことができる。

(2) 基調講演 「学校保健法の改正等から見る養護教諭の役割」中教審答申を踏まえて  
文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育調査官 采女智津江

- 今回の改正では、「教職員のそれぞれの役割を明確にし、学校全体の取組体制を整備する」という観点がしっかりと示されたこと、また、子どもの現代的な心身の健康課題に効果的な対応をするために、相互がどのように連携していくべきかについて話された。

(3) シンポジウム 演題 「学校保健活動の中核を担う養護教諭の役割」

コーディネーター 東京大学大学院教授 衛藤 隆

シンポジスト 群馬県高崎市教育センター指導員 長井 久子

保健主事・養護教諭の連携による組織的な取組を通して

鳥取県鳥取市立福部小学校校長 奥村 一成

養護教諭をパートナーとする学校経営の展開

東京都渋谷区 近藤医院院長 (学校医) 近藤 太郎

学校医と養護教諭のパートナーシップによる学校保健活動

岐阜県可児市立東明小学校養護教諭 小出 典子

保健室での健康相談からみえるもの

○4人の発表後に、「中核を担う」とは、組織との連携ということが大きく関係してくると話し合われた。最後に、「中核を担う養護教諭の役割」についてキーワードがそれぞれから発表された。

衛藤：専門性に裏付けられた確かな養護力

奥村：尊敬と信頼

近藤：普段からの会話

小出：つなぐ、ひろがる

長井：子どもと教職員と地域の人々をつないでいくキーパーソンの役割

○コーディネーターの衛藤先生からは、「養護をつかさどる専門の職にある教育職員という日本独自の職種が、いかに学校教育において意味ある存在であるかを示す絶好の機会が訪れていると考えるべきではないか。」とあった。

#### (4) 課題別研究協議会

##### 【課題1】 保健管理「自ら主体的に健康管理できる力を育てる保健管理の進め方」

講師 北関東アレルギー研究所長 森川昭廣

指導助言者 富山県教育委員会スポーツ・保健課 指導主事 渡辺克美

発表者 和歌山県和歌山市立山東小学校 養護教諭 増井夕美

健康診断の適切な計画・実施・評価

及び事後措置の進め方並びに結果の活用

愛知県立加茂丘高等学校 養護教諭 村瀬久美

本校における感染症予防対策について

岐阜大学教育学部附属中学校 養護教諭 阪野きよみ

よりよい自己決定のもとに健康管理ができる

生徒の育成をめざして

○山東小学校の増井先生は、小規模校の良さを生かし歯科検診前の歯みがき運動を「歯の健康貯金」と称して意欲を高める活動を仕組んでいる。また、加茂丘高等学校の村瀬先生は手洗い指導を取り上げ、生徒保健委員会の活動を中心に健康管理について考えさせていた。附属中学校の阪野先生は健康観察を工夫したきめ細やかな心身の健康チェックに取り組み、小中学校連携による学校保健委員会を設立した。みなそれぞれ、学校の健康課題を解決するために何に視点をおき誰と連携して取り組んでいるかの違いはあっても、目指すところは同じであった。

##### 【課題3】 「組織的に機能する保健室経営の進め方」

講師 十文字学園女子大学

准教授 松野 智子

指導助言者 山口県教育庁学校安全・体育課

指導主事 小田 美恵子

発表者 滋賀県立水口東高等学校

養護教諭 殿城 和美

保健室経営計画の作成と運営及び評価について

海津市立西江小学校

養護教諭 森 修世

学校保健活動のセンター的役割を担う保健室経営の進め方

高知県北川村立北川中学校 養護教諭 白石 直子

組織的に機能する保健室経営について

○3校の実践発表後に、「現代的な健康課題の解決に向けた適切な対応と健康教育の推進を図るため、これまで以上に組織的に機能する保健室経営の進め方」について、協議が行われた。

## (5) 企画展

○広瀬ます先生の功績

○6つのコーナー

- ・保健教育
- ・健康相談
- ・生活習慣づくり
- ・性に関する教育
- ・歯・口の健康づくり
- ・高等学校の研究、特別支援学校の教材



## 4 研修の感想

岐阜市は、養護教諭の前身である学校看護婦広瀬ます先生の出身地である。広瀬ます先生は、明治41年から26年間の長きに渡り、トラコーマや凍傷の手当てを始め児童の健康の保持増進のために心血を注ぎ、その偉業は「ぎふにすだつ心」(岐阜市教委編)にも記載され、頌徳碑も建立されている。このような偉大な広瀬ます先生の出身地である岐阜市で、養護教諭の全国大会が開催されることは感慨深いことであった。

記念講演の鳥取大学教授小枝達也先生の話では、「5歳児検診」という言葉が心に残った。上越市では発達相談が福祉交流センターで行われるようになり大進歩をしたが、この5歳児検診と就学時の健康診断とがミックスされることにより、必要な子どもたちへ早めに適切な支援が受けられるようになるのではないかと考えた。

また、入口に養護教諭による広瀬ます先生の紹介と6コーナーの企画展があり興味を引いた。たくさんの資料が並ぶと同時にそれを総括した掲示物がそれぞれのコーナーにあり、実践の積み重ねの重さを感じた。

大会2日目、9つの課題により課題別研究協議会が開催されました。新潟県から東蒲原郡阿賀町立三川小学校大竹裕子先生、三川中学校中村留美先生が「学校環境衛生活動・環境教育」で発表されました。

発表の要項をいただきましたのでご覧ください。

# 小中連携校の特色を生かした学校環境衛生活動

～小中合同の学校保健委員会と児童生徒の委員会活動を通じた取組～

新潟県東蒲原郡阿賀町立三川小学校 養護教諭 大竹 裕子  
 新潟県東蒲原郡阿賀町立三川中学校 養護教諭 中村 留美

## 1 はじめに

本校は、平成17年度より、新潟県初の小学校と中学校が同一校舎内で連携を行う、小中連携校としてスタートした。

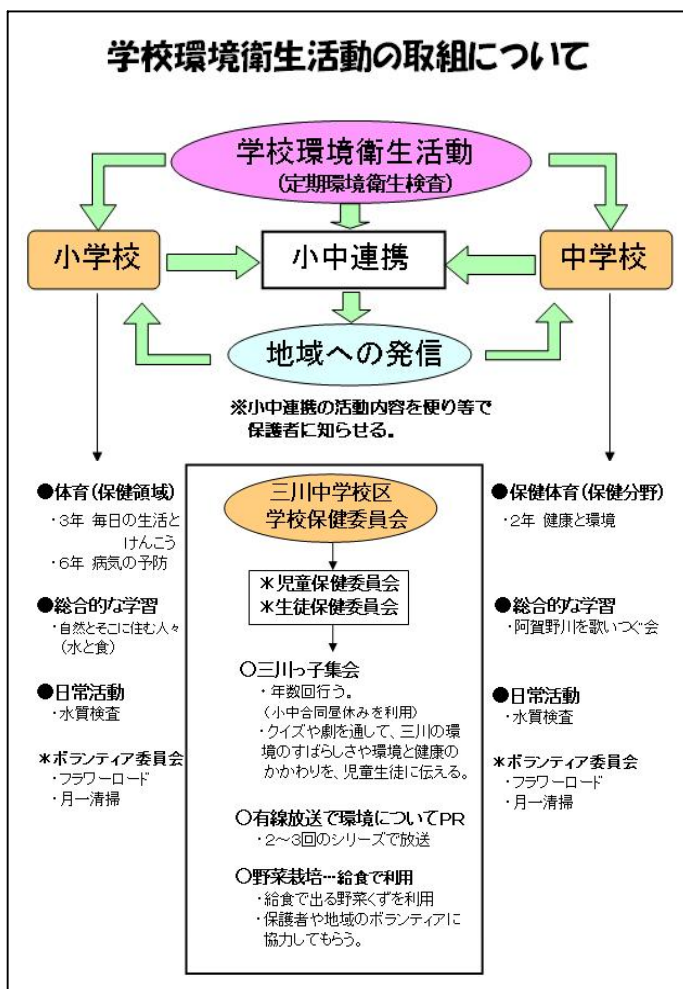
小学校は児童数147名の7学級（特別支援学級1）、中学校は生徒数77名の3学級である。

阿賀町は、新潟県の北東に位置し、町の中央を阿賀野川が流れ、中心部は比較的平坦であるが、周辺は山に囲まれている山間地域である。

本校では、総合的な学習の時間において豊かな自然環境を活用し、地域環境についての学習を行っている。

小学校では、阿賀野川の水質に焦点をあてて、下流の水質汚染も学習することで、地域の自然のすばらしさを再確認し、環境衛生維持管理の重要性を学んでいる。中学校では阿賀野川と村人の関わりの歴史を学び、毎年地域の方々と一緒に合唱組曲「阿賀野川」を歌いつぐ会等の地域社会と一体となった活動を実施している。これらの学習や活動により、児童生徒が身近な環境衛生に関心をもつようになっている。

そこで、今回は健康に関する事柄と関連させながら、児童生徒の委員会活動を中心に小中連携校の特色を生かした学校環境衛生活動を行おうと考えた。そして、生涯を通じて自らの健康と環境を適切に改善していくことができる児童生徒の育成を目指し、取組を行うこととした。



## 2 学校保健委員会と連携した学校環境衛生活動の取組

三川小中学校では、「自分の体を自己管理できる児童生徒の育成」を目指して、健康教育の指導を行ってきた。また小中合同の学校保健委員会を設置し、各学校の養護教諭が調整役となって児童生徒の健康課題の把握や改善を目指し、学校保健を推進していくための協議や連絡調整を行って

る。

今年度は、地域社会と連携して学校環境衛生活動を推進するために、児童生徒の委員会活動の他、小中学校PTA及び地域のボランティアの協力を得られるように働きかけた。

## (1) 小中連携による児童生徒の委員会活動の取組

### ①三川っ子集会

小中学校の保健委員会が中心となり、小中合同昼休みを活用して学期に1回子どもたちが住んでいる地域の自然や学校環境をテーマにした「三川っ子集会」を開催している。

今年度第1回の集会では、「水」をテーマに小中全校児童生徒で縦割り班を作り、班対抗でクイズを行った。集会を運営するにあたっては、小中学校の保健委員が協力してシナリオを考え、進行の役割分担を行った。また、実施にあたっては、中学生が縦割り班の班長となって班員をまとめ、進行をサポートした。クイズの内容は、総合的な学習の時間に地域の川や森での調査活動を通して学んだ水の大切さを伝えるために、健康と水とを関連付けて問題を作成した。例えば、人間が生命を維持するために必要な水分量や体内の水分（涙・汗・血液・尿等）の役割などについて出題した。児童生徒はこれらのクイズを通して、水は人間の生命の維持や健康及び生活の上で重要な役割があり、私たちの生活にとって欠かせないものであることを、楽しく学ぶことができた。

集会終了後には、集会の様子を学校保健委員会だよりや小中連携だより等に掲載して、保護者に伝えている。また、地元の有線放送を活用し、児童生徒が集会の様子を地域にも発信している。



<三川っ子集会の様子>



<有線放送の録音の様子>

### ②フラワーロードの整備と月一清掃の取組

小・中学校のボランティア委員会が中心となり、毎年校門前の通学路に花を植える「フラワーロード大作戦」を行い、環境の美化に努めている。フラワーロードの活動では、小中の委員会ごとにグループになり、担当場所を決めて、一緒に花を植えている。

また、毎月月末の1週間は、日頃の清掃活動で取り組むことの出来ない所を中心に清掃の重点箇所を決めて、校舎内外の環境美化を積極的に実施している。総合的な学習の時間で三川地域の阿賀野川の水と下流の水の水質検査を実施し、下流の水が汚れていることを学習した児童から「汚れた水を下流に流さないようにするために、ゴミを濾過してから流そう。」という提案があり、流しの中にバスケットを使用することで、ゴミを下水に流さないように工夫し河川の水質保全に努めている。



<フラワーロードの活動の様子>



<流しの様子>

### ③児童生徒による日常点検活動

小中学校の各保健委員会では、毎日昼休みに校内の日常点検活動を行っている。手洗い場のチェックや石けんの補充、廊下や階段・トイレの窓明けの他、教室棟の水飲み場の水質検査を実施している。かぜの流行する時期には、教室の温度や湿度をチェックし、適切に保つよう呼びかけている。

養護教諭は保健委員会を担当し、健康で安全な学習環境を整えるために、点検活動がスムーズに行えるよう、チェックカードの作成や当番活動の指導助言を行っている。

### (2) 無農薬の野菜栽培の取組

ごみの減少は、環境の保全に必要なものであるとの考えの基、本校の児童生徒の野菜嫌いを解消するための食育の取組と関連づけ、小中合同の学校保健委員会で検討し、無農薬の野菜栽培を行うことにした。本取組では、保護者や地域ボランティアの方々の協力を得て、畑のうね作りを行ったり、地域の農業公社の方を指導者に迎え、給食で使用した食材の野菜くずで肥料を作ったりして、自分たちで無農薬の野菜を栽培し、給食メニューに取り入れた。畑は玄関前の中庭に設置し、全校の児童生徒が登下校時に野菜の生育状況を目にすることができるようにした。また、雑草が生えてくると、小中学校ボランティア委員会が中心となって全校児童生徒に呼びかけ、草取り作業を実施している。



<栽培活動の様子>

### (3) 小中学校のPTA活動の取組

小中合同の学校保健委員会では、養護教諭が事務局となり運営委員会を開催し、学校環境衛生活動を推進するために保護者の協力が得られるようにメンバーであるPTA会長に協力を依頼した。その結果、PTA会長が小中学校の環境整備部に働きかけ、小中学校のPTAが主体となって保護者へ呼びかけを行い、休日を利用して除草作業を実施することができた。また

夏場に向けて、排水溝の害虫防止や雨水がスムーズに流れるようにするために、排水溝の清掃等校地内の環境整備も実施した。当日は小中学校の職員や生徒も参加した。

学校保健委員会で検討した内容やこれらの取組の様子については、学校保健委員会だよりを通じて小中学校の保護者に知らせ、学校環境衛生について関心を高めている。



< P T A 作業の様子 >

### 3 成 果

- (1) 総合的な学習の時間及び教科保健で水の大切さや日常生活で自分たちができる環境保護について学習したことや、「水と健康」をテーマに行った三川っ子集会を通して、児童生徒は恵まれた自然環境の中で生活をしていることを再認識することができ、水に対する関心が高まった。その結果、活動後の学校生活の中で、衛生面から蛇口を下向きにしたり、歯みがきやうがい・手洗い時に水を流しっ放しにしない、コップを使う、トイレの流水を消音に使わない等の節水のための工夫をするようになった。また、クラスや友達同士で呼びかける行動も見られ、環境保護に対する意識を高めることができた。
- (2) 本校では、様々な活動場面で小中学校の異学年交流が行われ、一人一人が三川小中学校の一員としての自覚をもって積極的に活動する力や、互いに思いやりをもち相手の立場になって考える力が身に付いてきている。そのため、委員会活動や三川っ子集会等の活動をスムーズに行うことができた。また、9年間を通してこのような学校環境衛生活動を継続して行うことにより、日頃の清掃活動等でも、小学生は中学生の姿を手本とし、中学生はより自覚をもって取り組む姿が見られ、校内の環境美化や身近な環境の維持・改善に対する意識が児童生徒間で受け継がれてきている。
- (3) 学校環境衛生活動を進める上で、養護教諭が調整役となって、小中合同の学校保健委員会を中心に連携を図ってきた。学校保健委員会の働きかけや、活動の様子をたよりや有線放送等を通して地域に発信することで、P T A や地域の人たちの理解や協力を得ることができ、P T A 主体のサポート活動につながってきた。

### 4 今後の課題

児童生徒の環境衛生に関する意識を高めるためには、学校環境だけでなく、地域の生活環境と関連付けた取組を行うことが有意義である。今後も小中学校の総合的な学習の時間、教科保健を中心とする教育活動とリンクさせて、身近な環境の維持・改善及び学校環境衛生に関する意識付けを行っていききたい。

また、小中合同の学校保健委員会では環境衛生の取組を始めたばかりなので、今後は今までの活動を基盤にしながら、学校薬剤師をはじめとする地域関係機関との連携を深め、小中連携校の良さを生かした学校環境衛生活動をさらに推進していききたい。